

2023年度 学校法人修道学園事業計画達成状況
 <広島修道大学ひろしま協創中学校・高等学校>

○:実施した △:実施中 ×:未着手 2024年3月31日現在

主要項目	具体策	達成状況	所管部局	実施月	達成状況 ○△×
I 協創教育の推進					
1 教育目標達成の取り組み	①スクールポリシーを公表し、本校の目指す学校像を内外に発信する。	本校ホームページで公表している。 https://www.shudo-u.ac.jp/fuzoku/intro/spirit.html また、BLEND、学校朝礼、会議等を通じて、生徒保護者、教職員へ周知した。	教務部、管理職	通年	○
	②本校で行うすべての教育活動を「協創教育」と位置付け、教育目標「グローバル・イノベーション・リーダーの育成」の達成を目指す。	教職員においては目指すべきビジョンを共有しつつ、各自の個性・特長を生かした教育実践を創造することのできる学校組織の形成を研修及びキャリアアップシステムの運用を通じて行った。	管理職	通年	○
	③教科「探究」を協創教育の基軸とし、各教科学習、GCP(グローバル・コンピテンス・プログラム)、国際理解教育、広島修道大学との連携などの取り組みを通して教育目標の達成に取り組む。	今年度、探究力を育成するための「探究ゼミ」を修大と連携し見直した。クラス横断で編成したゼミで、生徒の興味関心のある課題を設定し、修大教員の支援を受けながら、主体的に解決策を探る探究活動に取り組み、その成果発表会を2月末に行った。	教務部 協創教育部	通年	○
2 「4つの力」(課題解決する力・協創する力・社会参画する力・自己実現する力)の育成	①「4つの力の育成」を評価する「協創ルーブリック」の具体的な活用法について検討し、評価を試みる。また、「教科別ルーブリック」もブラッシュアップし、協創ルーブリックとの整合を図る。	今年度で3年目になる「協創ルーブリック研修」を2回開催した。また、公開研究授業を実施し、各教科の授業におけるルーブリックを使ったパフォーマンス評価の実践を行った。	教務部	通年	○
3 「GCP」(グローバル・コンピテンス・プログラム)の導入・促進	①本校教育目標を達成するための教科横断型で特色ある授業のGCPを探究授業の中で取り組む。	定例的なミーティングを行い、生徒に対する適切なレベルなども分かってきており、概ね順調に実施されている。GCP講師は二人とも生徒に対して積極的に関わりをもとめている。	協創教育部	通年	○
4 国際理解教育の推進	①海外提携校・姉妹校との交流や海外研修旅行などを通じて、英語力、異文化理解力、コミュニケーション力、創造力、日本人としてのアイデンティティ(グローバル基礎力)を育成する。	コロナ禍による渡航制限も解除され、国際交流事業を本格的に再開した。高校2年及び中学3年は、海外研修旅行を再開。NZ中長期留学には13人が参加。AFSから秋留学生を受け入れた。ポートランド研修はオンラインでの講座で実施した。フィリピン短期交換留学は来年度再開予定。	協創教育部	通年	○
	②広島修道大学との連携による各種国際交流活動を推進する。	修大留学生との交流、神楽&国際交流・カルチャーハイキング・留学生外国語講座を実施した。修大国際センターとはスムーズに連携が取れている。来年度は大幅な事業の見直しが見込まれるため、これまで以上に連携を密にする必要がある。	協創教育部	通年	○
5 ICTを活用した教育の推進	①ICTを活用した授業づくりや協働的な学びのための研究と情報の提供を行う。	Google kickstart programの実践的な研修を行おうとしたが、物理的な時間が取れないことなどから実施に至らなかった。一方で、ICT活用の推進は技術的な側面だけではなく、授業を生徒の能動性・主体性・個性を考えた授業に変えていく必要がある。	協創教育部	通年	△
II 学力の向上					
1 学力向上の取り組みの充実	①「予習⇒授業⇒復習」のサイクルを確立し、自学自習力を高められる授業内容や指示の出し方を工夫する。	教科主任会議を通じて、生徒の学力の分析を行った。それを踏まえ、各教科生徒の自学自習を促すような取り組みを行っている。	教務部	通年	△
	②授業を大切にすため、切り替えが素早くできる授業規律を徹底する。	生徒が自ら時間を見て行動できるように、ノーチャイムデーを実践した。また、授業規律については生徒支援部と連携し、徹底を促した。	教務部、学年会	通年	○

主要項目		具体策	達成状況	所管部局	実施月	達成状況 ○△×
2 「探究力」を目指す授業づくりの促進	③一日の学びのスタートは朝読書にあると位置づけると共に、次年度に向けてそのあり方を検討する。	概ね生徒には定着している。 なお、今年度、朝読の実施方法や内容について学内で議論することとしていたが、実施できなかった。	協創教育部 学年会	通年	○	
	④授業改善に向けた分析を行うため、生徒を対象としたアンケート調査を行う。	ベネッセのスタディサポートやスタディサプリ到達度テストにある学習状況調査の分析を教科主任会議や教科会等を通じて行った。また、学校評価アンケートの調査結果を踏まえ、全教職員に生徒の授業に対する満足度調査の報告を行った。今年度はコアネットによるデータ活用研修を2回実施し、次年度については、授業評価に関するアンケートを実施していく予定である。	教務部	通年	△	
	①「エミット学習」(描く・観る・問う)やICTを活用した授業づくりを教員間で共有し、授業で取り入れる。	プロジェクトやGoogle for Educationを各授業で取り入れて、実践を試みている。また、公開研究授業を中心として、その活用方法の実践検討を各教科で行っている。	教務部	通年	○	
	②参加型授業や探究的な学びを促進する授業の研究・実践を行う。	公開研究授業を中心として、参加型の授業や探究的な学びを促進するような授業の研究・実践を行っている。	教務部	通年	○	
	③新たな「探究」授業の深化を図り、その充実に取り組む。	教科「探究」については、今年度は様々な実践を生徒主体で行っており、その成果の報告を行っている。教科指導における探究については、まだ検討段階であり、新課程における授業内容の変更に合わせて、段階的に考えていく必要がある。	教務部	通年	○	
	III 進路支援の強化					
1 組織的な進路指導の取組み	①「進路シラバス」に基づいた取組みを充実させていく。	進路シラバスに基づき、取組みができた。高1・2年生では修大訪問、進路ガイダンス等の予定していた行事を遂行することができた。進路資料集は4月に配布することができた。	進路支援部	通年	○	
	②広島修道大学附属校推薦、総合型選抜、学校推薦型選抜などの対策案を企画・立案し、実施する。	高校3年学年団と合同でLHRやアクティブサタデーに面接学習会と面接模擬試験を開催し、面接対策を行った。 附属校推薦の被推薦者に対してミーティングおよび面接対策学習会を複数回実施した。 高校3年学年団を中心に、総合型選抜と学校推薦型選抜対策として、個別に小論文指導や面接対策を行った。	進路支援部	通年	○	
	③「協創スマート予備校」など、効果的な補習体制のもと、進路希望に応じた補習を実施する。	6月から放課後補習を高2・3全学年で実施するとともにスマート予備校を実施。夏休みより中学全学年、高1～3まで夏休み補習、高校はスマート予備校を実施した。また、2学期より中学3学年、高校全学年対象の放課後補習、スマート予備校を実施した。さらに、高校3年生には共通テスト直前講習会と国公立2次試験対策を実施した。スタディサプリの実施に関しては、配信機能を使用して苦手克服課題や単元別の配信をした。また、生徒によっては自学自習の一つとして個別に取組みさせた。	進路支援部	通年	○	
	④模擬試験の結果を分析し、教科指導に活かすと共に、個人面談を行い、進路実績につなげる。	中学1・2・3学力推移、高1・2スタサポ、高1・2ベネッセ記述模試について結果を分析した。職員会議、教科主任会議で報告し教科指導に活かすことを促した。高1の文理選択、高2の進路実現につなげるように学年団とも協力をした。高3の進路指導について、ベネッセハイスクールオンラインを活用し、生徒に有益な情報を与えると共に信頼できるデータに基づいて進路指導を行った。	進路支援部	通年	○	
	⑤広島修道大学附属校推薦制度の基準の見直しについて検討する。	修大と協議を重ね、附属校推薦制度の見直しを行った。大学の入試委員会で了承され、2025年度入学生から適用する。	進路支援部	通年	○	
IV 自立(自律)心の育成						
1 規範意識や倫理観の育成	①建学の精神を具現化する「み・そ・あ・じ」(身だしなみ・掃除・挨拶・時間)を合言葉にし、徹底を促す。	身だしなみについては、制服の着用方法だけではなく、各場面における居方に関しても指導を行った。掃除については、日々の清掃方法に関して周知徹底・統一化を図った。挨拶については、学校生活のあらゆる場面において指導を行ったが、未だ十分とは言えない状態にあるため、引き続き指導の徹底を図る。時間については、雨天・荒天時における遅刻生徒が多いことから、次年度に向けて改善方法を模索する必要がある。	生徒支援部	通年	△	

主要項目		具体策	達成状況	所管部局	実施月	達成状況 ○△×
		②協創生として自覚すべき協創スタンダード「AIM HIGH」(高みを目指す)につながる取り組みを実施する。	各教科学習や学校行事等において、向上心を持つ生徒の姿を確認することはできたが、十分とは言えない状況にある。生徒の自主性や積極性の向上を図る取り組みを実施し、自走できる生徒数の増加を図る。協調・協力の姿勢を養い、学校全体としてAIM HIGHを目指せる環境づくりに取り組	生徒支援部	通年	△
		③登下校の交通安全、SNSに関して等のルールやマナーの順守を徹底させる。	校内での指導、外部講師による講演等を通して、生徒に通信機器の正しい扱い方やSNS等の危険性について理解させることができた。しかし、通信機器の取扱いに関する校則が現在社会に適合しない状態となっており、指導が困難となっている。このため、生徒の意思を尊重しつつ、通信機器等の取扱いに関する指導方法の改善に向け、校則の見直しを行った。交通安全については、登下校指導を通して指導を実施できている。	生徒支援部	通年	△
	2 学校生活の活性化	①生徒自治会を中心に生徒が企画・運営することで、文化祭、体育祭、協創コンテストなどの行事の内容の充実を図る。	学校行事の運営は、自治会が中心となって実施することができた。各行事において、新たな取り組みを自治会役員が考案し、実施することができた。生徒アンケートの結果を尊重し、次年度以降、学校行事の更なる活性化を図る。	生徒支援部	通年	○
	②生徒自治会から全校生徒へのメッセージを発信する機会を増やし、意見交流の場を設定して自治会活動の活性化を図る。	能登半島地震義援金活動、校外清掃ボランティア活動など、自治会役員が考案した活動を実施することができた。意見箱を設置し、生徒からの意見・質問に対して、自治会役員が対応・回答した。	生徒支援部	通年	○	
	③限られた校内環境の中で、生徒が部活動に積極的に取り組むことで学校の活性化につながるよう取り組む。	部活に使用できる施設・設備は十分とは言えないが、各クラブが協力し、活動に取り組むことができた。次年度は、3号館の空き教室等の有効活用を図り、更なる部活動の活性化をめざす。	生徒支援部	通年	○	
V 教育力の向上						
1 教員研修の体系化及び実施	①初任者のための「メンター制度」を実施し、先輩教員から授業や校務などについて指導や助言を行う。	年間を通じて、定期的に初任者研修を実施した。主に校務の説明や初任者同士の意見交換、質問対応を行うことができた。特に4月から5月にかけては研修の回数を増やし、スムーズに校務に取り組めるよう対応を行った。	教務部	通年	○	
	②毎月1回水曜日の放課後を研修日とする。当日は短縮授業とし、研修年間計画に基づいて実施する。マネジメント、授業力向上等、多様な研修を実施する。	今年度も月に1回教職員研修を実施し、授業力向上などのスキルアップに繋げることができた。	教務部	通年	○	
2 公開研究授業の実施	①授業力向上を目的とした公開研究授業を実施する。	今年度も授業担当者の打ち合わせ、指導案の作成、外部指導者からの指導を踏まえ、11月24日(金)に公開研究授業を実施した。次年度以降は5科以外の教科についても実施していく予定である。	教務部	11月	○	
3 授業評価の実施	①日々の授業について、外部評価者や生徒による評価を行い、得られた評価と助言に基づき授業力の向上を図る。	県立広島大学教授を外部評価者として招き、新任者の授業観察を行った。実施後は振り返りを行い、授業改善に繋げることができた。	教務部	通年	○	
4 評価指針の作成	①授業評価のための教科別ルーブリックをブラッシュアップし、これに基づいて評価を試みる。	教科別ルーブリックをもとに公開研究授業を実施し、各教科で検討を重ねた。しかし、実践報告等の機会を設けることはできなかった。	教務部	通年	△	
	②「学校評価アンケート」(生徒、保護者、教職員)を実施し、結果を分析して具体的な改善策を提案する。	今年度は7月と12月に学校評価アンケートを実施した。7月のアンケートについては事後に研修を全教職員を対象として実施した。具体的な改善案についても研修を通じて検討した。12月のアンケート結果を踏まえ、7月から12月への増減を各学年、各質問項目毎に分析し、生徒保護者・教職員に報告した。	教務部	7月、2月	○	

主要項目	具体策	達成状況	所管部局	実施月	達成状況 ○△×
5 指導と評価の一体化の取り組み	①新学習指導要領の導入に伴って、学習指導と学習評価の一体化の取り組みをする。	次年度については、成績評価の一部を変更して実施する。新課程に伴い、本校として学習指導と評価の一体化について、どのような方針で進めていくのか、今後検討していく。	教務部	通年	△
VI 生徒募集の充実					
1 戦略的広報活動の実施	<p>①オープンスクール、地域別相談会、夜の説明会、随時見学等を軸として広報活動を実施する。</p> <p>②ウェブ(ホーム)ページ及びSNSでの発信をこれまで以上に充実させる。</p> <p>③小・中学校や塾の訪問は、事前準備を入念にすると共に、在校生の有無や親疎関係などに基づき、訪問先を厳選するなど、戦略的に実施する。</p>	<p>中学校OS申込状況：5月実施(オンデマンド)148名 昨年度比187%、7月実施 261名 昨年度比86%、10月実施 204名 昨年度比108%、公開模試 224名 昨年度比116%</p> <p>高校OS申込状況：6月実施 644名 昨年度比90%(昨年度は7月にプチOSを開催したことも影響している)、10月実施 536名 昨年度比134%</p> <p>・OSの企画運営は中高ともに生徒と共に行った。次年度は首都圏や関西圏、県内にある学校のOSへ計画的に参加し、OSの企画運営に役立てる。</p> <p>・地域別相談会、夜の説明会・個別相談会は予定通り開催をすることができた。地域別相談会については、近年参加人数が減少傾向にある。</p> <p>・中学校は、受験者数は微増したが、入学者は定員を満たすことができなかった。OSや夜に開催した個別相談会の内容は良く、来校者の満足度も高かったと考える。次年度は、OSの時期を見直す。また、各家庭への案内として紙媒体のDMを復活させた。OSのリピート率から情報の発信として効果があった。OSで終わらず、その後、入試まで定期的に学校情報を提供し続けることの重要性を改めて感じた。そのため、次年度は紙媒体のDMに加えて、公式LINEを広報活動に加えていきたい。</p> <p>・学校の魅力を作り、的確に伝えることができるよう、学年・他分掌等と連携して取り組んでいく。また、在校生の兄弟姉妹、OS参加者等、各家庭への定期的な情報発信を行うことができなかった。名簿の整理と定期的な情報発信を次年度は確実に実行していく。</p> <p>・HPについてはブログやニュース等でリアルタイムに情報を発信することができた。しかし、コース変更に伴う学校情報等の整理、改修は進めることができていないため、早急に取り組む。</p> <p>・今年度新たに部員の中でSNS(Instagram)の担当を設け、更新頻度を向上することができた。また、在校生が多い様子ではあるがInstagramのフォロワーは1,300を超えた。次年度はより定期的な更新をめざす。また、現在Instagramを運営している部活動がいくつかあるが、連携できていない。ガイドラインを設定し、連携を図っていきたい。そしてX、Facebook、YouTubeもその役割を改めて確認し、運用していきたい。</p> <p>・各SNSでは日常の投稿に加え、OS前には告知の動画を発信した。</p> <p>・7月の中学校第1回OSではSNS(Instagram/X/Facebook)を多くの受験生・保護者に見てもらえるような企画、10月の高校第2回OSでは部活動展示で各部活動が載っているページのQRコードを配布、ホームページをより多くの人に見てもらえるような企画をそれぞれ行った。</p> <p>・入試に関しては統一の説明資料を作成した。また、初任者研修で入試に関する説明のロールプレイングを行い、訪問先での対応の練習を行った。</p> <p>・塾の訪問先については、学校周辺(西区・佐伯区・廿日市・大竹・岩国)や通いやすい地域(中区・安佐南区一部)を中心に再度見直していく。</p> <p>・塾へのオープンスクールの案内を一部郵送にしたところ、周知されていない塾があった。次年度はイベントの周知が徹底できるよう、訪問計画を検討したい。</p>	<p>企画広報部</p> <p>企画広報部</p> <p>企画広報部</p>	<p>6月～11月</p> <p>通年</p> <p>5月～11月</p>	<p>△</p> <p>△</p> <p>△</p>

主要項目	具 体 策	達成状況	所管 部局	実施月	達成 状況 ○△×	
VII 学校組織力の強化						
1	組織体制の充実	<p>①中期事業計画に基づいた年度事業計画を踏まえて、各部が主体的に考え、行動できる体制を構築する。また、その振り返りを全教員で共有する。</p> <p>②年度事業計画に基づき、校務運営会議、教科主任会議、学年会、部会等での昨年度の評価・振り返りを踏まえた教科別等事業計画を作成し、実施する。</p> <p>③研修主任及び中高一貫教育担当を中心に、教職員研修及び中高一貫教育体制の充実を図る。</p>	<p>部会等を通じて、事業計画の進捗状況を確認し、今後の取り組みについて意見交換し、検討を行った。</p> <p>一年を通じて、各教科で事業計画を作成し、計画に基づき実施した。</p> <p>研修主任を中心として、教職員研修を月一回実施することができた。教職員も積極的に参加しており、自身のスキルアップにつなげることができていた。</p>	<p>各部</p> <p>管理職、教務部</p> <p>教務部、管理職</p>	<p>通年</p> <p>通年</p> <p>通年</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
2	人事評価の実施	①適正な評価に基づいて教師力を高め、組織として教育力を最大化することを目的として策定した「キャリア・アップ・システム」(人事評価制度)を活用し、教職員の成長を支援する。	校長から示された年度目標に加え、今年度は中期計画を踏まえた教科経営計画を刷新し、それらを踏まえ各自が作成した協創シートをもとに、管理職と教員が個別に年3回(期初、中間、期末)の面談を行った。面談を通して、各教員が掲げた年間目標の達成状況を把握するとともに、必要に応じてアドバイスをを行った。次年度はこれらの実績に基づき、より具体的な人事評価を行う。	管理職	通年	○
VIII 事務室の機能強化						
		①「キャリア・アップ・システム」(人事評価制度)を活用し、事務室の企画、財務面の機能強化を図る。	職員本人が作成したキャリアアップシートをもとに、年3回(期初、中間、期末)の面談を実施し、年間の目標を確認するとともに、進捗・達成状況を話し合うことができた。教育目標を達成するため、このシステムを通して、職員個々のスキルアップを図る取り組みができた。	事務室	通年	○
		②教職協働の考え方にに基づき、事務職として学校経営に積極的に参画する意識の醸成を図る。	事務職員として、まずは、教員と教育に関する議論ができる環境を整えるべく取り組んでいる。	事務室	通年	○
		③施設・設備中長期保全計画に基づき、計画的な施設・設備の維持管理に努める。	施設・設備中期保全計画に基づき、計画通り改修を実施した。なお、来年度の生徒増を想定し、机、椅子などの備品の手配を行った。	事務室	通年	○
		④教職員の勤務管理を適切に行うと共に、健康の保持増進に努める。	教職員が生き生きと活躍できる職場を目指し、「これからの新たな働き方」に示したルールに基づき、適切な時間外勤務となるよう努めた。また、年次有給休暇の取得状況を随時行い、元気回復のための年休取得に努めた。	事務室	通年	○